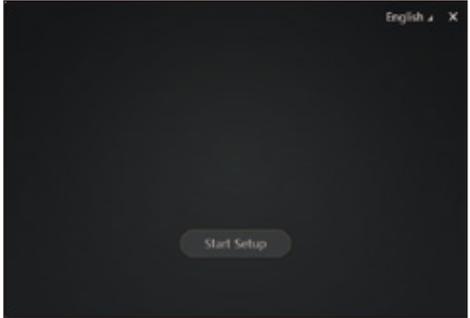
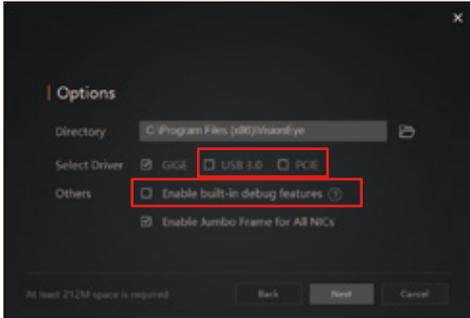
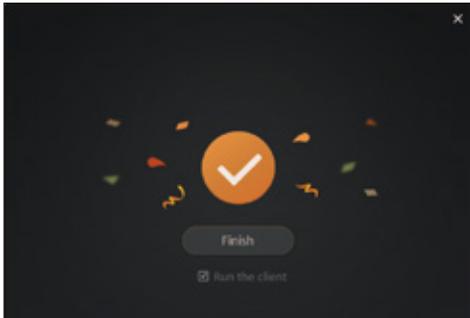


GigE カメラドライバ セットアップ手順

GigE カメラの動作にはドライバのセットアップが必要です。

以下の手順にしたがってドライバをセットアップしてください。

	<p>1. 「Driver」⇒「01_GigE カメラドライバ」フォルダの VisionEye_NEU_●●●.exe を実行します</p>
	<p>2. 設定そのまま「Start Setup」をクリックします。</p>
	<p>3. 「USB3.0」、「PCIE」と「Enable built-in debug features」のチェックを外して「Next」をクリックします。</p>
	<p>4. インストールがはじまります。 完了までしばらくお待ちください。</p>
	<p>5. 左画面が出たら「Finish」ボタンをクリックしてカメラドライバ自体のインストールは完了です。</p> <p>「Run the client」にチェックが入っていると VisionEye（ビューアソフト）が起動します。 不要な場合はチェックを外してください。</p>

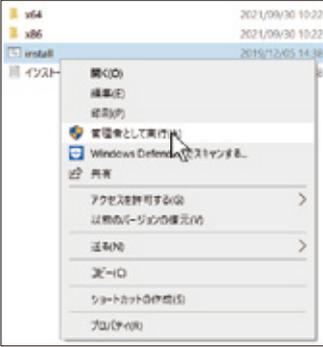
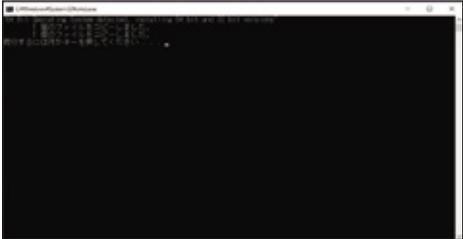
計測機能付きビューアソフト「MFShip」を使用する場合は、

続いて「Measure 対応プログラムモジュール」のインストールを行ってください。

Measure 対応プログラムモジュールのインストール

計測ソフトウェアで GigE カメラを動作させるにはドライバの他に Measure 対応プログラムモジュールのインストールが必要となります。
インストールは以下の手順でカメラドライバのセットアップ後に行ってください。

カメラを VisionEye で使う場合や、HiTrigger シリーズのソフトウェアを使用する場合は Measure 対応プログラムモジュールのインストールは不要です。

	<p>1. 「Driver」⇒「O2_Measure 対応プログラムモジュール」フォルダに移動します。</p>
	<p>2. install.bat を右クリックして「管理者として実行」をクリックします。</p> <p>ダブルクリックでは正常に実行できませんので必ず管理者として実行してください。 ダブルクリックで実行してしまった場合は再度管理者実行してください。</p>
	<p>3. コマンドウィンドウに「続行するには何かキーを押して下さい」と表示されたら、キーボードの任意のキーを押下して終了します。 これでモジュールのインストールも完了です。</p> <p>※「アクセスが拒否されました」というエラーメッセージが表示される場合は「O2_Measure 対応プログラムモジュール」フォルダをデスクトップなどの PC のローカルフォルダに移動させた後に install.bat を実行してください。</p>

MFShip のカメラ選択の「WDM の選択」から「MvCamera DirectShow Source」を選択することで MFShip で GigE カメラが使用可能になります。

ソフトウェアの使用方法はソフトウェアのマニュアルをご参照ください。